

第7回 ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議 議事録

テーマ: コアカリキュラム改訂が目指す新しい薬学教育

日時: 平成25年3月28日(木)12:00~12:45

場所: 日本薬学会第133年会 パシフィコ横浜(E会場)

出席者: 59名(世話人・講演者含む)

配布物: 会議プログラム、文部科学省モデル・コアカリ改訂案(中間まとめ)ーA基本事項

1. 開会

世話人(石川さと子(慶應大))より、会議の趣旨が説明された。

2. 講演「コアカリキュラム改訂の概要ーヒューマニティ・コミュニケーション領域に関して」

中村明弘先生(昭和大、日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会委員・コアカリ改訂調査研究チーム 1G 責任者)より、コアカリ改訂の経緯と検討の流れ、薬学系人材養成の在り方に関する検討会と薬学会コアカリ調査研究委員会、コアカリ改訂調査研究チーム 1グループの関係について説明された。また、今後、各大学のアンケートをとる予定のヒューマニティ・コミュニケーション領域に関するコアカリ改訂案(中間まとめ)が配布され、調査研究チームの案に従って、文部科学省が修正した経緯が説明された。概要は以下の通り。

「A基本事項」「B薬学と社会」の改訂作業の方針は、基本事項、導入教育について、より広い視点から見直すことである。その際、医薬品の安全確保についても追加し、医学教育モデル・コアカリキュラムとの整合性をとることになっている。現コアカリの「全学年を通して」という文字はなくなるが、早期から卒業まで学ぶ内容であることは変わらない。一方、大項目Bの内容は導入教育ではなく「薬学と社会」とした。

A基本事項の位置づけは、薬剤師としての心構え(プロフェッショナルリズム)を身につけるための基盤となる項目であり、生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の医療など、複数の基本的な資質にまたがる内容で、6年間をかけて到達すべきものである。これらは、学習を積み重ね、学年進行に伴い、医療人である薬剤師として理解を深め、態度を醸成することにより、薬剤師として求められる基本的資質を全学生が身につけられるようにすることを目指している。

今後、各大学へ依頼される予定のアンケートに回答するときは、基本的資質と並べて見るとよい。F薬学臨床教育で強化すべきとされている医薬品の安全性については、基本事項としても取り入れている。具体的なSBO案では(1)薬学会案になかった大項目1が追加されているが、これは人材養成の会議から、まず医療人として、という部分を出すべき、という意見が出て追加された。大項目3,4についても、文科省の検討会、委員会の意見を反映されたものである。

今後のスケジュールとしては、平成25年度に大学、関連団体等からの意見をふまえた修正作業後にパブコメを募集し、新コアカリが決定される。その後、各大学において、新コアカリに準拠したカリキュラムの構築を進め、平成27入学生より新カリキュラムを開始することとなる。

3. 次年度の会議予定について

木内祐二(昭和大)世話人より、次年度はファーマシューティカル・コミュニケーション学会(7月21日)の開催に合わせて、7月20日に当教科担当教員会議のワークショップを実施し、コアカリ改訂の意見、疑問などを共有する予定であることが報告された。

4. 閉会

※教科担当教員会議メンバーリスト humanity_comm@ml.keio.jp

薬学教育協議会に登録されたH24年度科目担当教員および第7回教員会議に出席された教員を登録済み。